人口減少社会の現場にどう向き合うか？

名古屋大学大学院環境学研究科
都市環境学専攻　建築学系　准教授

小松　尚

自己紹介

小松　尚（こまつ ひさし）

1966年生　博士（工学）一級建築士

名古屋大学大学院環境学研究科　都市環境学専攻　建築学コース

専門：　建築計画、地域計画、まちづくり

最近の研究・活動テーマ：

- ●まちの中の居場所
  - ●まちの居場所としての公共施設計画（主に学校計画）
  - ●地域住民が主体的に運営する交流の場所づくり（コミュニティ・カフェ等）
- ●人口減少時代の建築・まちづくり
  - ●地域の課題・ニーズに応える公共施設計画・マネジメントのパラダイム
  - ●空き家問題、学校の統廃合問題
  - ●持続可能な中山間地域の仕組みづくり
- ●地域・大学連携のまちづくり・キャンパス計画
  - ●地域組織と大学のまちづくり連携体による公共空間の協働マネジメント
- ●子どもの建築・まち学習
  - ●特定地域やコミュニティスクール、キャンパスでの実践とその検証

研究室HP：

http://comweb.campus.provost.nagoya-u.ac.jp/komatsu/html/1welcome.htm

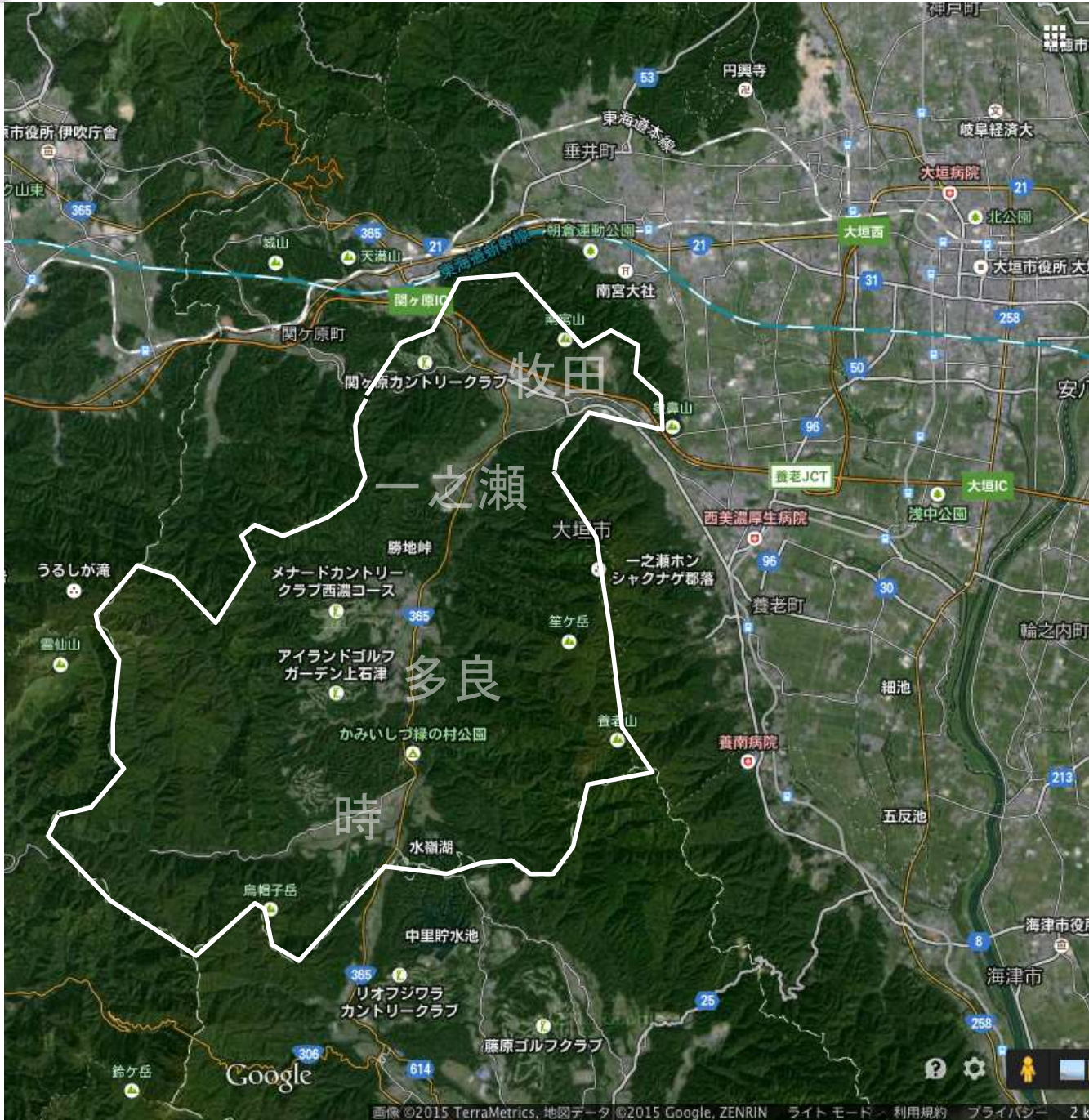
地域・学校協働の校舎建替と学校運営

- 2001年から「コミュニティ拠点」としての学校整備（建て替え）に着手
- 2007年6月から、コミュニティースクール（地域運営学校）として、地域との協働による運営が始まった
- 行政からではなく、地域が自ら構想することを求めて検討し、建設、運営へと続く。
  - 授業支援（地域色豊かな授業の実施）
  - 各種イベントの地域主催
  - 学校での地域図書館の実現
- 中部建築賞 一般入選（2007年）、公共建築賞優秀賞（2010年）、あしたのまち・くらしづくり活動賞振興奨励賞（2011）

大垣市上石津町

大垣市上石津町

第1回 臨床環境学カフェ



大垣市上石津町牧田地区

大垣市上石津町時地区

良質な里山風景が今なお残る上石津・時地区
烏帽子岳、牧田川、森林、田畑、民家…

2006年に大垣市と飛び地合併。
上石津・時地区住民の不安、危機感

中山間地域共通の課題
急速な高齢化、過疎化、少子化、休耕地・放棄地、森林の荒廃、市町村合併による行政サービスの低下…

温泉施設の構想

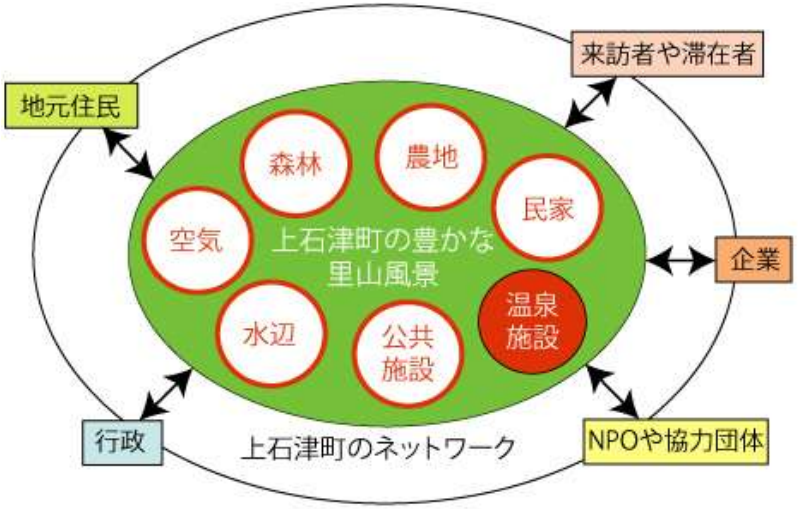
住民自治による里山資源を活かしたこれからのむらの姿とその仕組みづくりの実践

「かみいしづ温泉を中核にした地域振興構想」2005

（旧上石津町からの委託研究。代表：谷口元 工学部教授。）

現状認識

- 牧田川上流の谷筋に位置する。名古屋ICから車で1時間。
- やや乱れつつある国道沿いの風景とは違い、時地区には看板ひとつない里山風景がまだ維持されている。
- 中山間地域共通の課題を抱えている。
- 時地区のために動く意欲ある若い世代がいる。（時まちづくり活動推進実行委員会）



烏帽子岳登山道整備

桜並木の再植樹

国道沿道の花壇整備

地域への投げかけ（提案）

- 温泉施設は最終目標ではなく、時地区のむらづくりの第１歩に
- そして、里山風景の活用・保全・回復による新しい地域自治やネットワークづくりを

旧幼稚園を転用したまちづくり会館

子ども向けの活動

バザーによる活動資金づくり

かみいしづ温泉開発に関する検討報告2009.3 ～これからの方針を確認

①時地区のまちづくりの一環として温泉施設を構想する

時地区のまちづくり資源を最大限活かした活動を通して理解者やファンを増やし、長期的には一時的な来訪者だけでなく定住者や就業者を迎え入れたい。このような長期ビジョンの第一歩として、温泉施設を構想する。

②時地区の地域住民がまちづくり活動や温泉施設の運営を主体的かつ自律的に実施する

このような長期的な視点に立ったまちづくり活動を、時地区の住民の自信や誇り、そして生きがいに。

第一歩となる温泉施設に関しては、公設民営の事業としたい。特に運営に関しては、地域住民の結束のもとに地域主導で実施したい。地域の主体的、自律的取り組みのパイロット事業として温泉施設を運営していく。

①地域主導による運営体制の構築

まちづくり活動や温泉施設構想を実現化するための実行力と責任の在り処を明確にした体制を検討する。

②まちづくりや温泉施設運営を担う人々の確保と育成

実際の担い手となりえる方々を組織化し、意識を共有し、住民でできることについて具体的に検討する。

③時地区の魅力的な地域資源の関連付け

里山を構成する要素や歴史的遺産、既設の公共施設など、都市居住者にとって魅力的な地域資源を再確認し、温泉施設とともに関連付けるアイデアや活動を具体的に検討する。

④温泉施設の建設と経営に関する具体的検討

どれほどの温泉施設をどのような協働の体制で経営できるのか。

循環型社会「上石津」の中核になる温泉施設とまちづくり構想！

背景①

耕作放棄地、山の荒廃、担い手不足、脱石油エネルギーなど、

背景②

過疎化、少子高齢化、健康や相互扶助の不安など

背景③

上石津の再認識、若者獲得、癒しの希求、食・水の安全など

里山の再生

景観向上
・農地や森林の共同管理

人材活用
・シルバー世代・支援者

木の駅
・間伐材の搬出・活用
・上石津産エネルギー（木質バイオマス）

住民の福祉

健康増進
・ヘルシーウォーキング

見守り合い
・コミュニティの維持

まちの駅

都市との交流

癒しの場づくり
・2地域居住・定住

地域内外交流
・烏帽子岳登山
・ふるさと料理
・農作物直販

里山体験
・里山観光
・農林業体験
・都市住民・子どものファン

（仮称）上石津・里山ステーション「湯葉の湯」

実現に向けた課題

「持続可能な森林農地の管理方法」
木の駅構想の具体化、行政等との連携

「地産地消」
農工商の連携、上石津特産品や観光開発

「魅力再発掘」
自然、生産物、昆虫・植物、遊び、祭り等の関連づけと広報

「安定した経営」
無理せず継続できる経営方法と地域合意

「人材発掘」
隠れた人材・技能の発掘、受入れやもてなし方、地域の結束

「関連機関・企業との連携」
音楽村、緑の村、旅行会社、行政・大垣市民等

第1回 臨床環境学カフェ

地元住民と学生の意見交換会　2009.8.4~5

①時地区の第1印象

- きれいな水、深い緑色の森、田、瓦屋根の民家（洋風家屋がない混じらない）で構成されたシンプルな風景。
- 人工物でできた都会では当たり前の電線すら、ここでは面白く見えた。
- ビューポイント（風景を楽しむ場所）がたくさん。
- 地域の人同士が顔見知りというのもいいこと。
- みなさんがまちを愛しているのにびっくり。
- 国道から時地区の存在がわからない。

②ここでしてみたいこと

- 散歩したり自転車で回りたい。
- 川遊び、川に触れたい。アマゴ釣り。
- 温泉スタンドはたらいで足湯ができるくらいの量だと来訪者も使いやすい。
- 湯葉神社だけでなく、他の6カ所も巡りたい。
- サークルの合宿。緑の村やコテージで安く宿泊。

③「温泉施設」と聞いて考えたこと

- 自然がある、そして温泉もある、で十分。地元の温泉にお邪魔するという感じが来訪者としてもいい。
- 温泉施設はいろんな活動の一つでは。温泉自体は来訪目的にならない。
- 時地区にやってきたときの最初の受け入れ拠点にしては。まちを歩いて温泉に戻る。クリニックを併設も。
- 風景全体のバランスを崩さないように。田んぼの中に建設するのは従来の都市開発と一緒じゃないか。

④意見交換

- もっと悪い点を指摘してほしい（地元）
- 危険な場所は明示すべき（学生）
- 時の様々な活動、それだけでも来てみたくなる。もっとアピールを。でも活動全体のテーマは何？（学生）
- 人の手が入っていることの良さを感じる（学生）
- 車以外の交通手段で回る方法を（学生）
- 住んでもらうにはどうしたらいい？（地元）

第1回 臨床環境学カフェ

大垣市上石津町での2つのプロジェクト

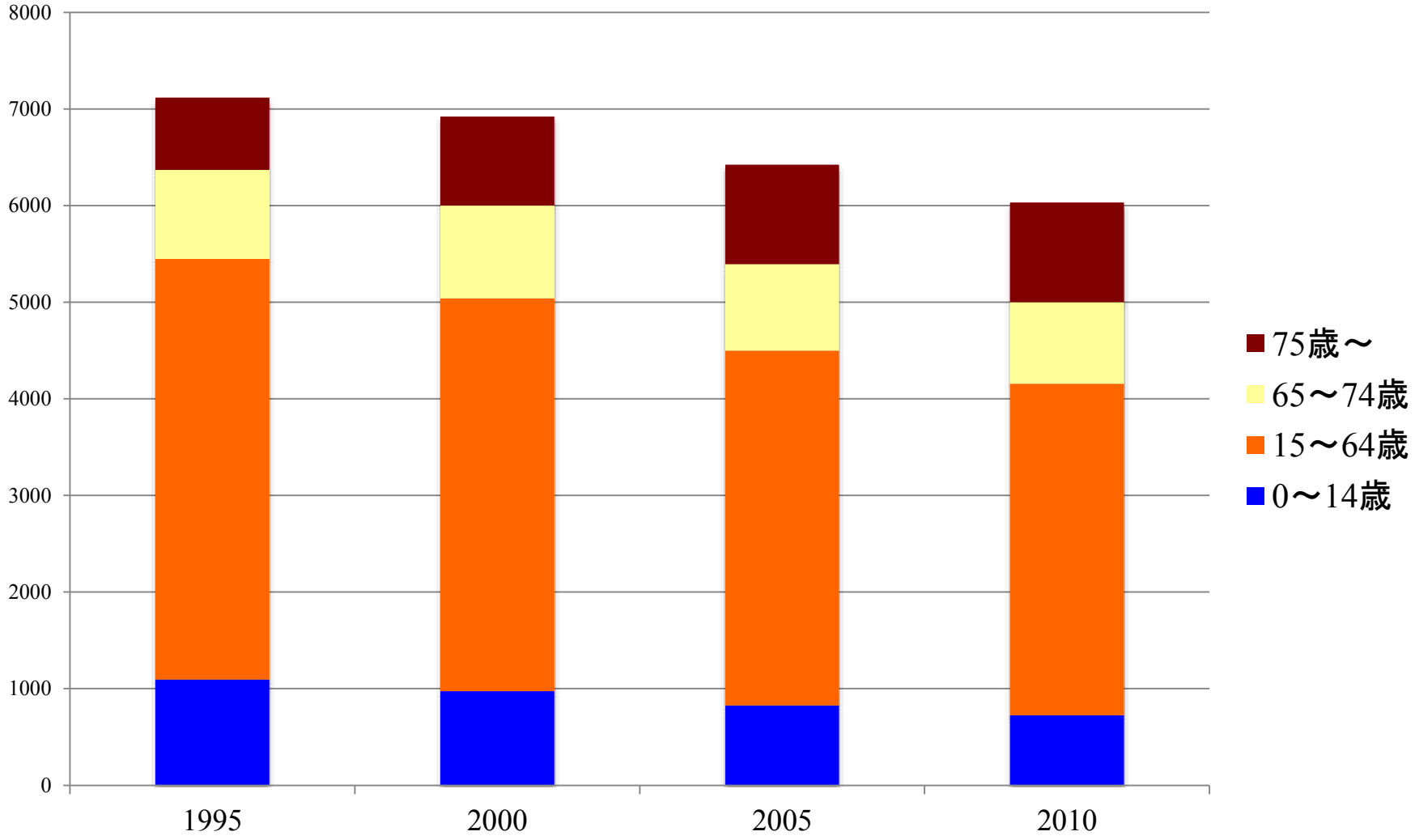
① 緑の村公園のリノベーション計画策定

- 委託元：大垣市都市計画部都市施設課
- 1970年代にオープンしたリクリェーション施設
  - テニスコート、宿泊施設、BBQ、登り窯など
  - 学校の環境学習や企業の研修で利用
  - 近年の利用者は激減、宿泊施設の食堂も閉鎖
  - この施設の将来計画づくり（廃止や抜本的改革も含めて）

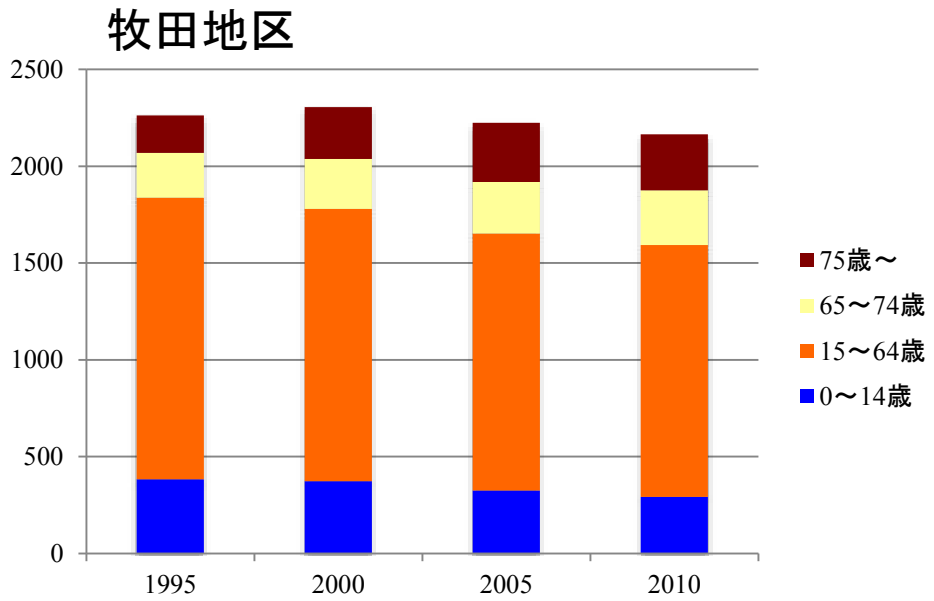
② 九里半街道・牧田宿の景観まちづくり方針策定

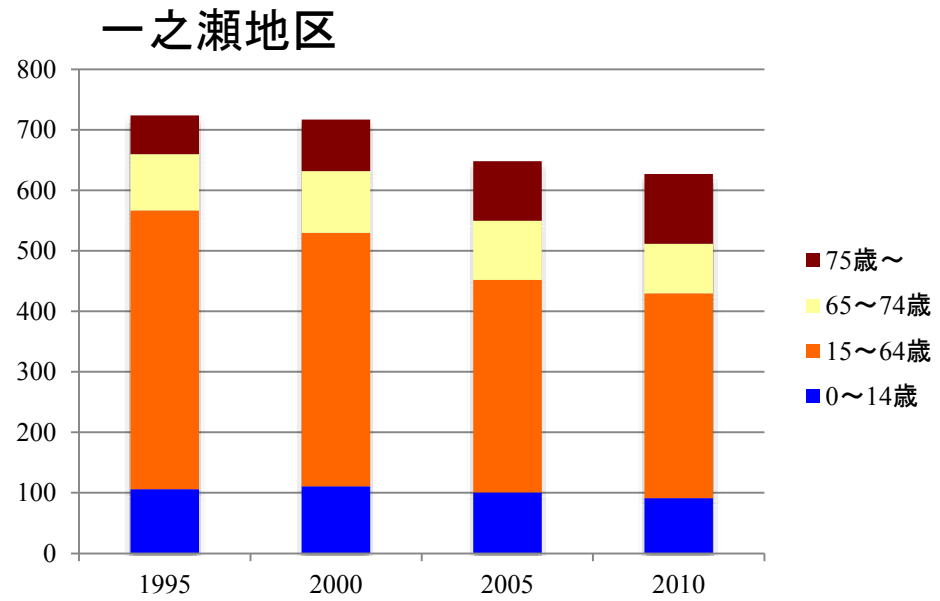
- 委託元：大垣市都市計画部都市計画課
- 中仙道につながる物資輸送の街道として江戸時代に発達
- 優れた景観要素：常夜燈、旧郵便局、街道沿いの家屋・庭、背後の森林等
  - 昨年までに地元主体で「牧田ビジョン」を策定
  - 「牧田ビジョン」を具現化していくためのステップづくり

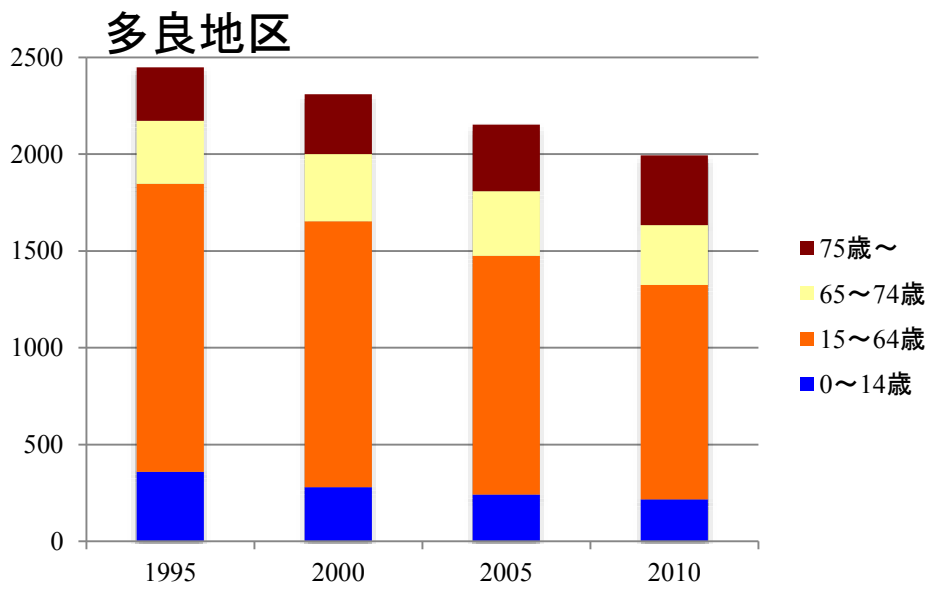
上石津町の人口推移

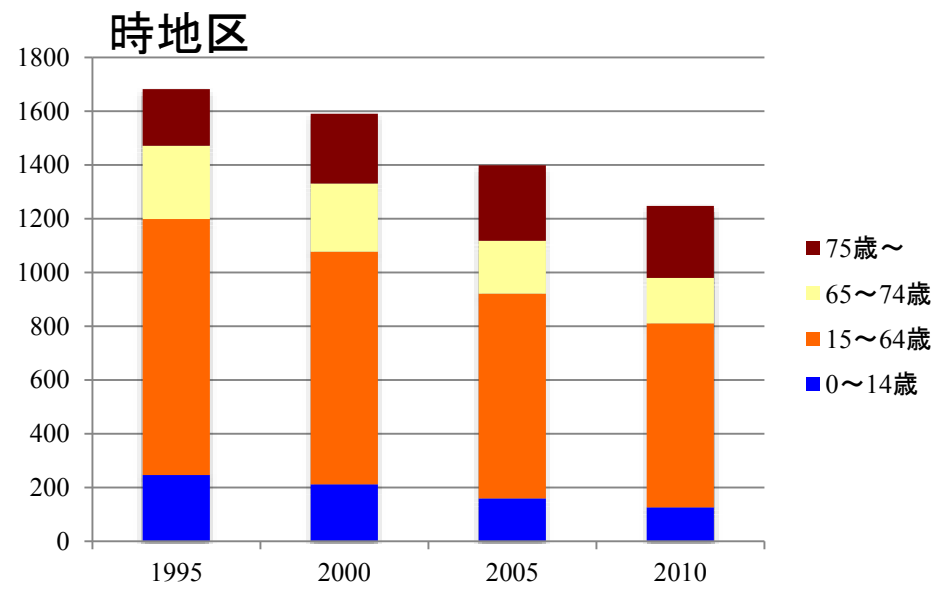

8000
7000
6000
5000
4000
3000
2000
1000
0
1995
2000
2005
2010
75歳～
65～74歳
15～64歳
0～14歳

上石津町4地区の人口推移









コンサルティング・ファームのプロジェクトとして

■ 与えられた課題＋背後にある課題の多元性

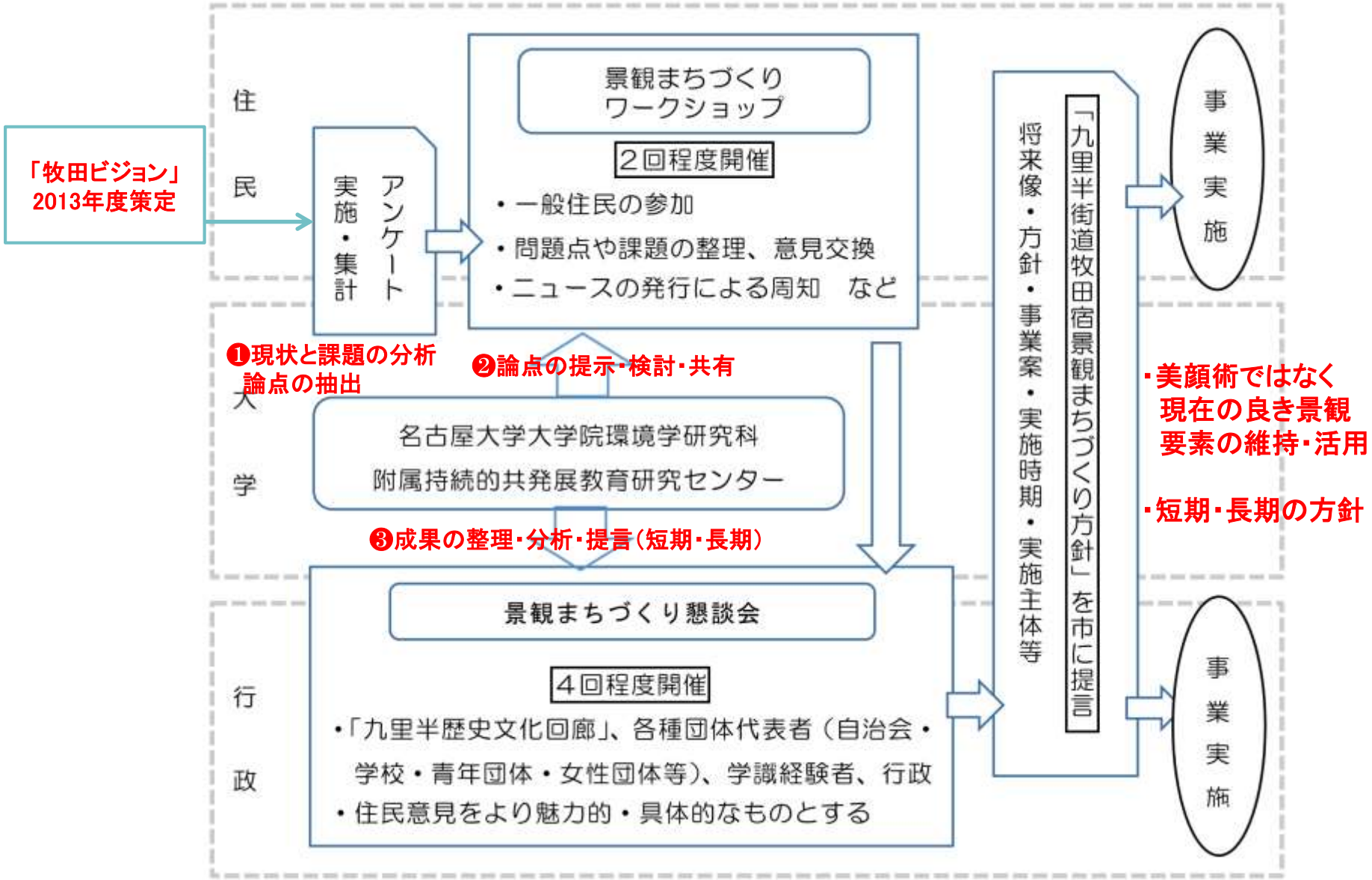
- 今日的なチャレンジングな研究課題
- 研究だけでなく、計画や構想づくりという社会還元
  - ⇒ しかし、私の専門性だけでは×（研究・構想づくりの両面で）
- 中山間地域（＋上石津）に詳しい方々がコンサル・ファーム周辺に存在
  - ⇒ 比較研究も可能
- ワークショップや各種資料づくりに、教育研究の一環で院生も参画可能
  - ⇒ 研究対象そのものになったり、現在の研究のヒントになる

■ 2つのプロジェクトを受託

- 市との契約は、受託研究。
- 参加教員の専門分野
  - ⇒ 緑の村公園：環境学4名（建築計画、都市計画、環境工学、地球環境）
    生命農学1名
  - ⇒ 九里半・牧田：環境学3名（建築計画、都市計画、地球環境）

九里半街道・牧田宿　景観まちづくり方針策定

景観まちづくり方針策定（受託研究）事業内容



牧田宿付近のデザインサーベイ:近景要素

牧田宿付近のデザインサーベイ：アイストップ

牧田宿付近のデザインサーベイ:屋並み

牧田宿付近のデザインサーベイ:遠景

九里半街道周辺（1970年代：GIS分析）

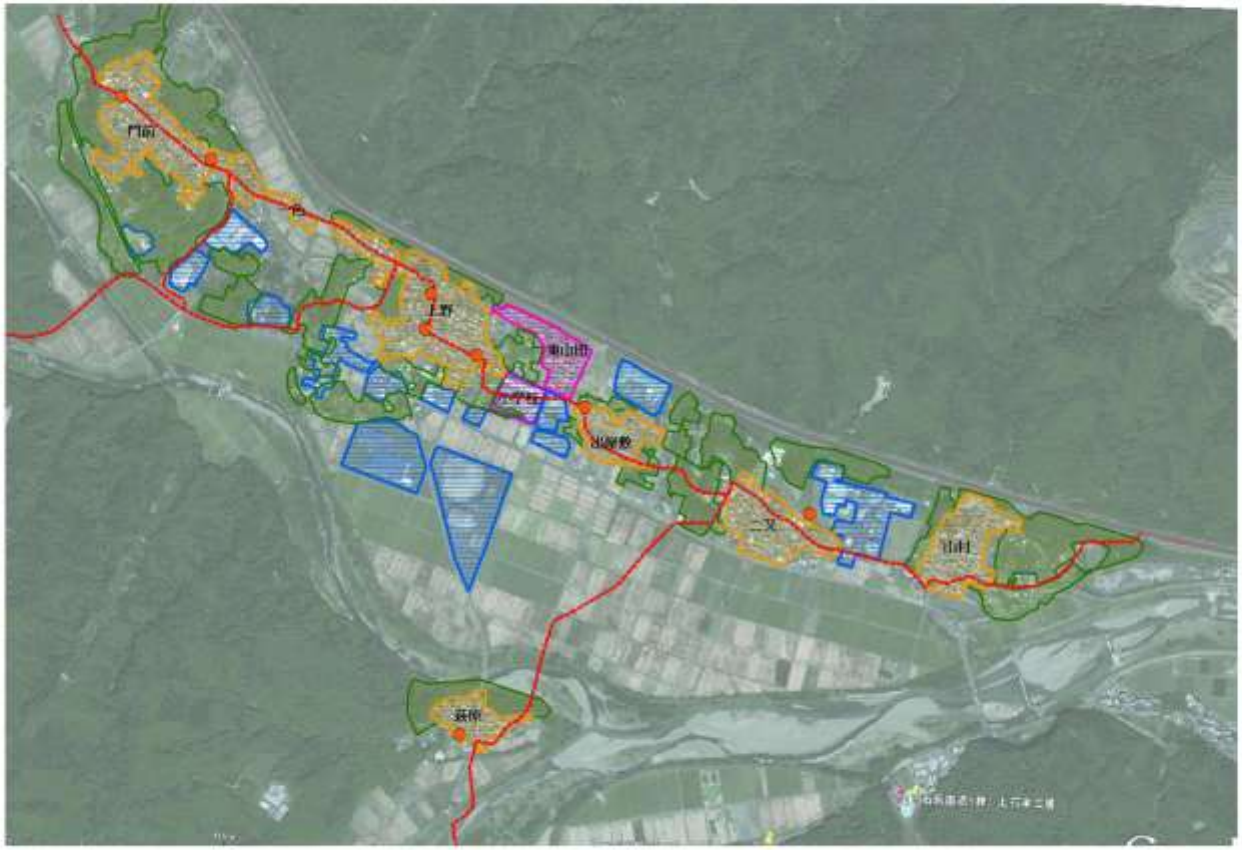
■景観の変化

図－1. 1970年代航空写真と九里半街道・集落

©高取千佳

九里半街道周辺（2014年：GIS分析）

■景観の変化



図－3. 2014年航空写真と九里半街道・集落・住宅地・工場用地

©高取千佳

比較分析

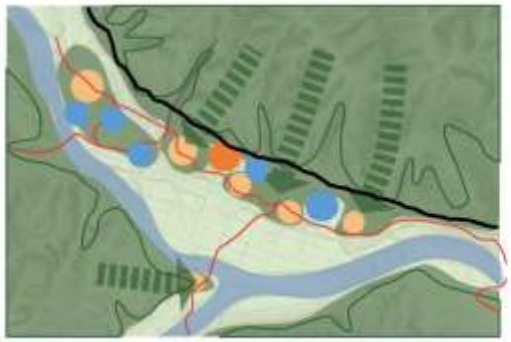
九里半街道の景観変化

街道沿いの宿場町の景観の構造・機能の変化
（集落景観から新しい住宅地・工場との混在へ）

1970年代ダイアグラム

■1970年代までの集落景観

自然景観：山に囲まれた囲繞の景観：山（森林）・河川
歴史・生活景観：農地（水田・畑）の中に、九里半街道沿いに、緑に包まれた集落が点在。各集落に常夜燈。街道沿いには山地を遠景として、シークエンス景観の移り変わりが見られたと考えられる。
（樹林地⇒集落⇒樹林地⇒水田⇒・・）



2014年ダイアグラム

■2014年の景観

自然景観：山に囲まれた囲繞の景観：山（森林）・河川
歴史・生活景観：農地に新しい住宅地（東山田など）・工業用地やそれに付随する駐車場が立地。コミュニティの核となる小学校が作られる。街道沿いのシークエンス景観が変化。
新たな住宅地には新たに若年世代が移住し、一方で既存集落では旧い住宅様式が高齢化・空き家化する一方、新しい住居も混在する状況となる。

©高取千佳

住民アンケート調査の実施方法と結果

■ 実施主体、方法
- 本懇談会（事務局：大垣市役所都市計画課）
- 2014年9月に自治会経由で全戸に配布・回収
  - 異なる世代の回答を得るため、各戸にアンケート票を2部配布。
  - 20才以上の方で、異なる世代が回答するように依頼。

■ 回答状況
- 世帯単位
  - 配布世帯数　558
  - 回答世帯数　441（回収率79.0%）
- 個人単位
  - 回答総数　770（牧田地区人口2,067人の37.2%）

アンケート調査結果（抜粋）

を推進する一環として、景観まちづくりや生活環境に関する地域住民の意識や意向を把握するために実施されました。この結果は平成 26 年 10 月 15 日に行われた景観まちづくり WS の第 1 回においても紹介されました。

アンケートの方法について

- 自治会経由で平成 26 年 9 月に配布回収しました。
- 20 歳以上の異なる世代から回答を得るために、各世帯 2 枚のアンケート用紙を配布しました。

A-1性別

- 各世代から回答が得られました。
- 男女比もバランスよく回答が得られました。

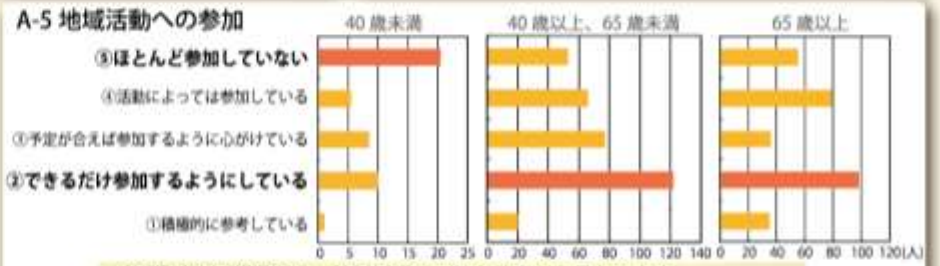
A-4 家族構成

- 65 歳以上の半数が高齢の夫婦のみ、または独居です。
⇒将来、見守りや空き家が問題になるかもしれません。

A-6 近所との付き合い

- 高齢の方に比べて、若い世代は近所との付き合いが少ないようです。

A-5 地域活動への参加



- 40 歳以上の世代では、地域活動への関心が高いと見られます。
- 一方で 40 歳未満の世代は、地域活動に対して消極的な人が多いようです。

C1-(1)「庭の管理をしている」と回答した人のうち、庭の管理に対して現状に問題を感じる方

- 「現状に問題はない」と考えている方が大半ですが、「問題に感じることがある」「よく感じる」方も約2割います。

C-2(1)住宅の後継者

- 今後空き家となる住宅が 50 戸以上出る可能性があります。（牧田地区の 10% 以上を占めます）

C-2(2)「後継者がいない」と回答した人の今後の予定

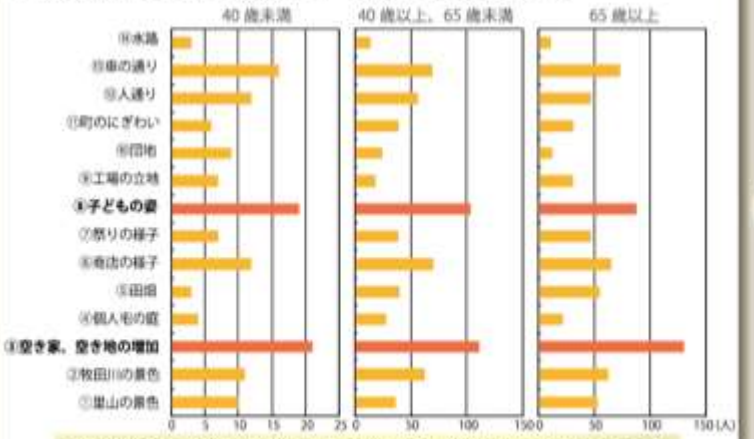
- 半数以上の方が「空き家のままにしておく」と回答しており、空き家問題がいずれ発生しそうです。

アンケート調査結果（抜粋）

D-2(1)九里半街道沿いの景観の印象

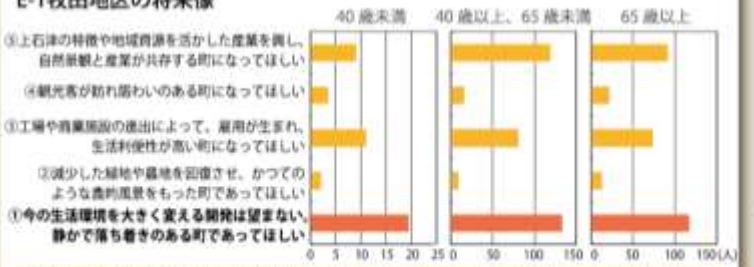
・若い世代ほど、「印象がない」と感じる人が多いようです。
・65 歳以上では、半数の人が比較的よい印象を持っていると見られます。

D-2(2)九里半街道沿いの景観について変わったと思うところ



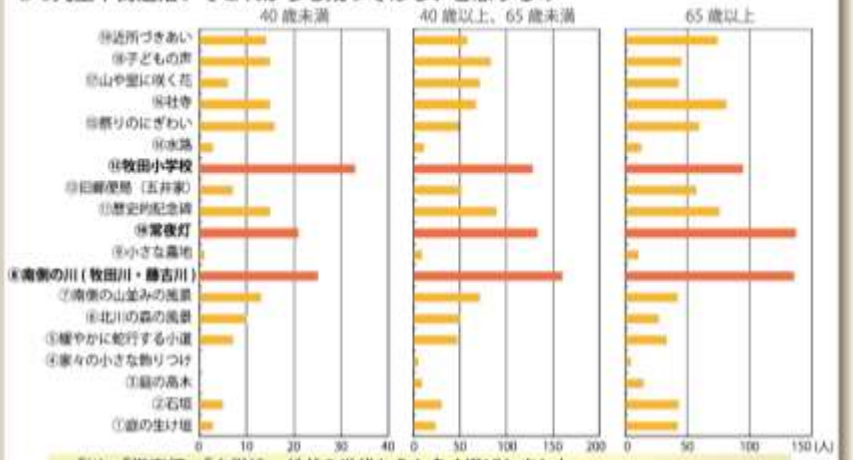
・どの世代でも「空き家の増加」「子どもの姿」が変わったと感じています。

E-1牧田地区の将来像



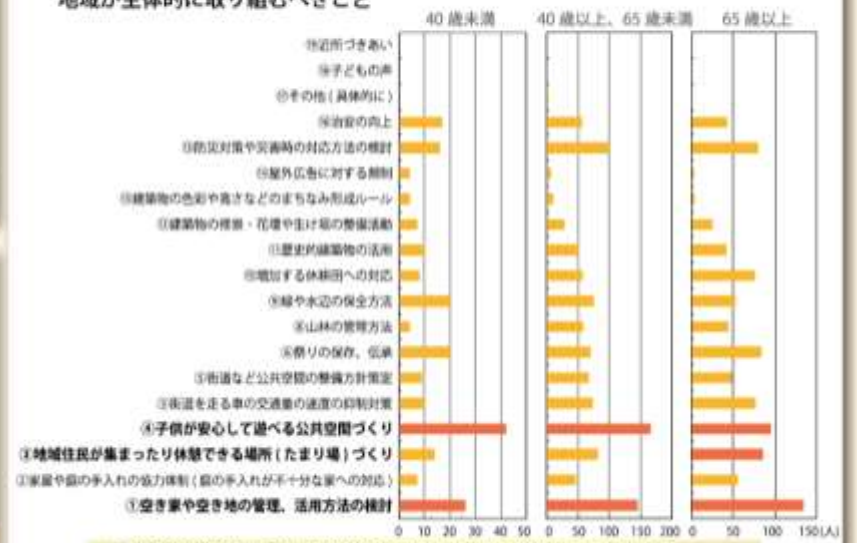
・世代を問わず現状を大きく変えたくない、落ち着きのあるまちであってほしいと思う人が多いようです。

D-3九里半街道沿いでこれからも残ってほしいと思うもの



・「川」「常夜灯」「小学校」がどの世代からも多く選ばれました。
・若い方ほど小学校の存続を重視し、高齢の方ほど川や常夜灯の存続を重視しています。

D-4九里半街道沿いの良好な景観づくりや、持続的な生活環境づくりのために地域が主体的に取り組むべきこと



・子供のための空間づくりや空き家への対応に関心が集まっていました。
・高齢の方は、地域住民のたまり場づくりについても気になっているようです。

第1回 臨床環境学カフェ

第1回WSの様子（2014年10月15日）

48名の牧田地区住民が8グループに分かれて議論

1. アンケート結果をふまえ、みなさんの感想や意見を共有
   - 特に、これからの牧田地区を考える上で課題に思うこと
2. それをふまえて、次のことを議論
   - 「牧田地区」として取り組むべき課題
     - 対象（もの、場所、行事、など）
   - 対応方法と取り組み方
     - 守る、直す／元に戻す、さらによくする、など
     - どこが主体になる？

第1回 臨床環境学カフェ

第2回WSの様子（2014年12月6日）

■ 48名の牧田地区住民が6つのテーマに分かれて、そのアクションプランを議論

①空き家対策と定住移住促進

②高齢者の支援（買い物・サロンづくりなど）

③子どもの環境（遊び場、居場所づくり、自然とのふれあい等）

④歴史文化の保存活用（街道・常夜燈など）

⑤自然や庭・田畑・森林の活用・管理

⑥交流とPR

第1回WSとアンケート結果を報告する「かわら版」（2014年11月発行）

九里半街道および牧田宿周辺の景観まちづくりやこれからの生活環境の在り方に関するアンケート調査の結果

速報

※配布世帯数：558　回収世帯数：441（回収率 79.0%）　回答総数：770（牧田地区人口 2067 人の 37.2%）

実施主体：九里半街道・牧田宿景観まちづくり懇談会（事務局：大垣市役所都市計画課）
※ここに紹介した結果はお話題の一部です。アンケートの全結果は牧田支所で閲覧できます。

このアンケートは、九里半街道・牧田宿景観まちづくりを推進する一環として、景観まちづくりや生活環境に関する地域住民の意識や意向を把握するために実施されました。この結果は平成 26 年 10 月 15 日に行われた景観まちづくり WS の第 1 回においても紹介されました。

アンケートの方法について

- 自治会経由で平成 26 年 9 月に配布回収しました。
- 20 歳以上の異なる世代から回答を得るために、各世帯 2 枚のアンケート用紙を配布しました。

九里半街道・牧田宿景観まちづくり事業　　平成 26 年 10 月 15 日実施

九里半街道・牧田宿景観まちづくりWS　第 1 回

らかわら版

- 平成 25 年度に牧田まちづくり協議会が「未来の牧田ビジョン」を策定しました。また、九里半街道・牧田宿での活動実績を踏まえて、今年度から景観まちづくり事業が始まりました！！
- 景観を良くするということは、見た目だけではなく、住み続けられる「まち」「地域」を目指すことです。
- 今年度中に、4 回の懇談会と、2 回のワークショップで将来像や方針、事業案、事業主体等を検討し、景観まちづくり方針案を大垣市に提言します。
- 牧田支所で行われた今回のワークショップでは、地域の課題を共有し、「牧田地区」として取り組むべきことについて話し合いました。（参加人数 48 名。ファシリテーターは地元住民が行いました。）

WS の流れ

①アンケート結果（裏面）の報告
↓
②8 つのグループに分かれて九里半街道・牧田地区の課題やその解決策を議論
↓
③グループごとに発表

話し合いで出たご意見をテーマごとにまとめました！！

1. 牧田の行事について

運動会や餅まきなど多くの行事がありますが、「行事が多い」、「若い人が楽しめていない」などの意見が出ました。若い人の中には「平日は仕事、休日は買い物で忙しい」方もおり、若い世代の参加が課題のようです。

課題
①若い人が参加しない
②参加、企画している側の負担が大きい

提案
①若い人が楽しめるイベントを企画する
　若者会議、女性会議をやってみては？
②行事の数を減らす
③各行事の意味をもっと知ってもらう

2. 九里半 他

「牧田を知って欲しい」「遊びに来て欲しい」「移住者を呼び込みたい」という希望を実現するために、九里半街道や川沿いのハイキングで魅力を伝える、などの意見が出ました。

課題
①地域内で魅力が共有できていない
②地域外の人に知られていない

提案
①実際に歩いて魅力を共有しよう
　例）一緒にハイキングする、小学校に出前授業する
②道の駅をつくって野菜を売る

3. 空き家の増加

全国的に空き家が増加していますが、この地域も例外ではなく、管理方法や活用策が活発に議論されました。「仏壇があるから簡単に貸し出せない」など所有者側にも悩みがあるようです。

課題
①近所トラブルの原因になる
②簡単に貸し出せない
　（仏壇がある、お金がかかる、片付け）

提案
①今後も継続して所有したい
　→自分たちで管理する仕組みをつくる
②移住者、次男、学生に貸貸 or 売却しては？
　→改修して住宅、別荘、レストランに

4. 庭の管理

九里半街道沿いの景観を形成している要素として重要な「庭」ですが、高齢化で今後、管理が難しくなると予想されます。

「庭コンテストでモチベーションアップ」というユニークな意見も出ました。

課題
①居住者の高齢化で管理しきれなくなる

提案
①自分たちで管理組織をつくる。
　有料ボランティア
②庭コンテストでモチベーションアップ

5. 田畑・山などの管理

耕作放棄地の増加や、山の管理が行き届かなくなっていることで、災害や獣害につながる危険性があります。新たに住民間で管理していく仕組みを作ろうというアイディアが出ました。

課題
①耕作放棄地が増えている
　放っておくと災害、獣害につながる

提案
①自分たちで管理組織をつくる、有料ボランティア
②第 3 者に委託する

6. 次世代の確保

「後継者がいない」「これからの牧田を考える上で重要なのは子どもだ」という意見が出ました。移住者を受け入れる仕組みを作るとともに、若者や子育て世代が住みやすい町に変えていく必要がありそうですね。

課題
①若者が牧田に残ってくれない
②子どもの遊び場が少ない

提案
①移住者を呼び込むための仕掛け
②子どもの環境を整備する
　→学童保育所、公園の整備など

7. 番外編　他にこんな意見も出ました！

貧物が困難なお年寄りのための対応策を考えよう！

まちづくり財源を得るための活動をしよう！

都会の人は郊外なものに興味が湧くみたい。よくわからない…

移住者をよそ者扱いしてしまわないか、心配・・・

地域のつながり強化やお年寄りの孤立の防止の一策として、多世代交流の場所づくりを

新興住宅地は牧田の雰囲気と合っていないのではないか。

ひとくちコメント

「子どもたちに牧田に住み続けてもらうには？」「若い人を呼び込むには？」という課題が活発に議論されているのが印象的でした。その他の課題も若い世代が減少している現状との関連性が深いと感じます。
また、外から人を呼び込むと共に、地域で牧田を育てる仕組みづくりが求められています。より具体的なイメージを地域全体で共有し、その実づくりに向かいたいですね。

そこで次回12月6日のWSでは、今回のWSで得られた意見を参考にして、景観まちづくり方針について議論する予定です。

事業実施主体：九里半街道・牧田宿景観まちづくり懇談会（事務局：大垣市役所都市計画課（電話：47-8694））
WS 実施主体：名古屋大学大学院環境学研究科附属 持続的共発展教育研究センター（小松・高野・浦南）
WS 実施支援及びかわら版制作者：名古屋大学小松研究室（中村・澤畑・李・鍋亀・テン・中野・陳・王）清水・高取研究室（鈴木・高橋・安藤・渡辺）

第2回WSとアンケート結果を報告する「かわら版」（2015年2月発行）

事業実施主体：九里半街道・牧田宿景観まちづくり懇談会（事務局：大垣市役所都市計画課［電話：47-8694］）
WS 実施主体：名古屋大学大学院環境学研究科附属 持続的共発展教育研究センター（小松・高野・高取）
WS 実施支援及びかわら版制作者：名古屋大学小松研究室（中村・原坂・李・鍵亀・テン・中野・黄・王）清水・高取研究室（鈴木・高橋・安福・渡辺）

九里半街道・牧田宿景観まちづくり事業

平成 26 年 12 月 6 日実施

九里半街道・牧田宿景観まちづくり WS　第２回

かわら版

・平成 25 年度に牧田まちづくり協議会が「未来の牧田ビジョン」を策定しました。また、九里半街道・牧田宿での活動実績を踏まえて、今年度から景観まちづくり事業が始まりました！！
・10 月の第１回のワークショップの結果をふまえて、今回は牧田地区の将来に向けた行動計画のアイデアについて話し合いました。（参加人数 48 名。ファシリテーターは地元住民が行いました。）

WS の流れ

①第１回 WS の結果から６つのテーマを設定
↓
②参加者には議論したいテーマを選択してもらった
↓
③テーマごとにグループで議論
↓
④グループごとに発表

議論のポイント！

議論の際、①今取り組んでいること②今すぐ取り組むこと③時間をかけて取り組むことという視点でアイデアを整理し、特に②今すぐ取り組むことを中心に話し合いました。また、どこを（で）／ 誰が（と）／ いつ／ どのように　を意識して議論しました。

①今取り組んでいること（内容と課題の確認）

今地域で出来ていること、出来ていないことを確認しました。

○今取り組んでいる内容
●今の課題

グループ①　空き家・定住促進
○空き家の把握
●空き家の定義がはっきりしない
●貸し出しシステムの明確化
●宿泊施設がない
→あれば、イベント時などの宿泊場所になる

グループ②　高齢者の支援
○各地区にサロンの設置
○買い物支援バスの運行
○一人暮らしのお宅訪問、声かけの実施
○弁当、食事サービスの供給

グループ③　子どもの環境
○遊び塾を夏休みに開催
○ちびっ子広場の管理不十分
●自然の中での遊び方がわからない
→川は危険と学校に止められている

グループ④　歴史文化の活用・保存
○ボランティアガイドの起用
○案内板、道しるべの設置
○近隣の街道の観察、研究
○旧郵便局の補修
○栗おこわ「くりはん」販売

グループ⑤　自然の管理・活用
○ボランティアによる間伐・伐採（山林・河川敷）
○間伐材の利用
○サクラやモミジの植樹拡大

グループ⑥　交流促進・PR
○町民運動会や盆踊り、文化祭の開催
○常夜燈のお祭りの実施
○パンフレット（常夜燈、街道）の作成
●対外的な PR が少ない、弱い

③時間をかけて取り組むこと（アイデア）

じっくり考えて実現していきたいことをまとめました。

グループ①　空き家・定住促進
・地域の活動拠点として空き家を利用
・人に貸し出せるように環境整備（内装、庭など）

グループ②　高齢者の支援
・有償ボランティアの仕組みづくり
・旧郵便局の活用
・空き家で高齢者のシェアハウス

グループ③　子どもの環境
・子供だけでなく、みんなのたまり場の設置（例：旧郵便局を改修して）
・遠くの子どもとの交流のために福祉バスの子ども無料化

グループ④　歴史文化の活用・保存
・山の神のパンフレット作成
・「くりはん」の本格商品化
・鹿肉や猪肉の活用（燻製等）
・絶滅種センパの養殖と放流
・桐の里の復活（昔は桐たんすの一大生産地だった）

グループ⑤　自然の管理・活用
・地域住民が主体となって管理できる体制（森林）
・自然を活かした公園づくり
・農業株式会社を作る（組織に寄る一括管理、地産地消）
・自然災害のない環境づくり

グループ⑥　交流促進・PR
・PR のための話題作り
・ホームページでイベント告知
・緑の村公園を上石津全体の道の駅として活用
・上石津全体＋三重（いなべ）で連携

ワークショップの様子

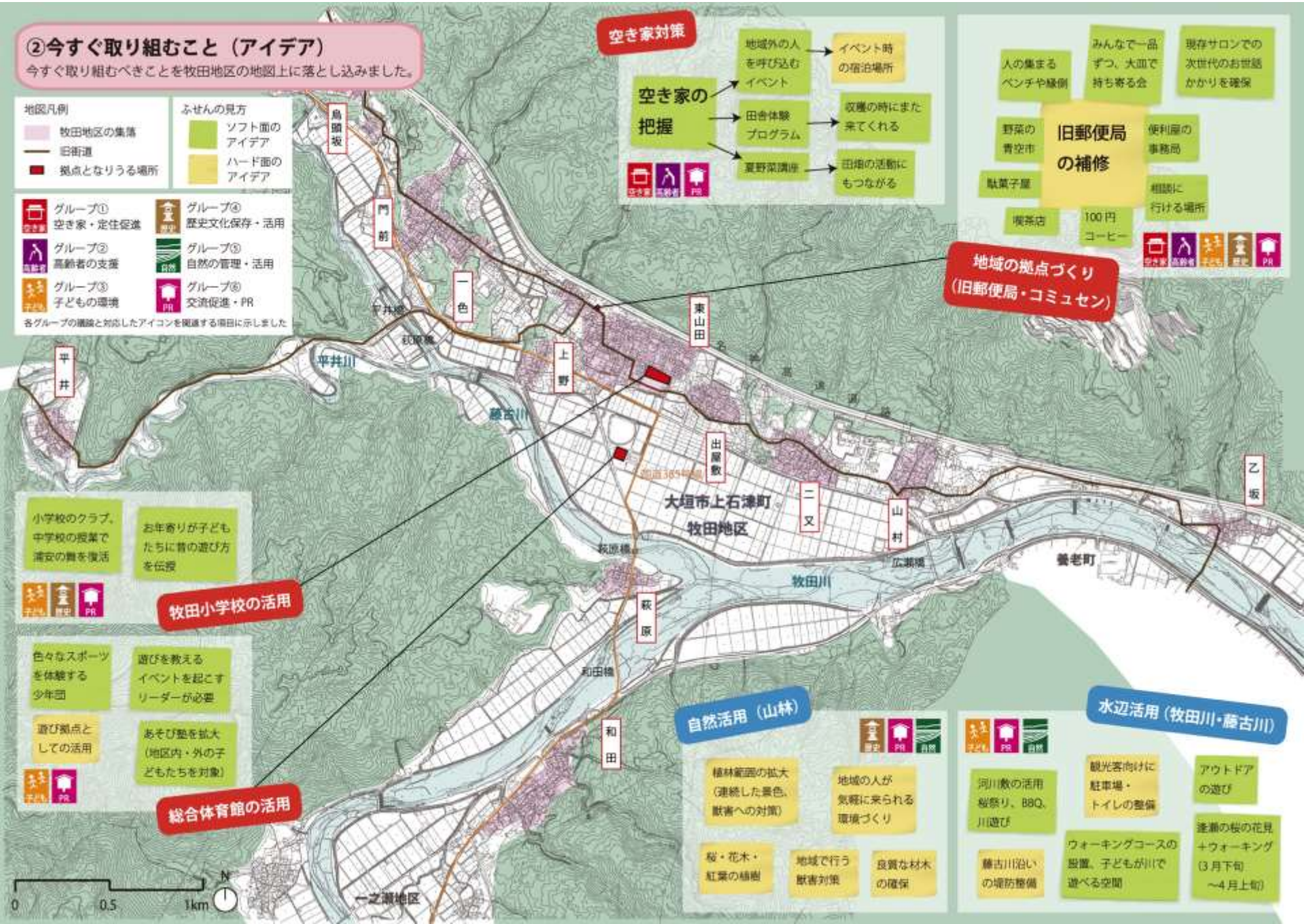
意見交換

成果物の発表

ひとくちコメント

将来に向けた行動計画のアイデアを参加者の皆さんからたくさん頂きました。議論を行った６つのテーマは、マップからわかるように、相互に深く関わりあっています。
「誰が」「どのように」といった具体的なところまでたどり着くのはなかなか難しかったです。実施に向けた体制づくりは課題として残りました。
今後は、アンケートと２回のワークショップの結果をもとに、景観まちづくり方針案に向けた検討を行います。さらに来年度（平成 27 年度）からは「里山プロジェクト」としてまちづくり活動を本格的に稼働させます。

第2回WSとアンケート結果を報告する「かわら版」（2015年2月発行）

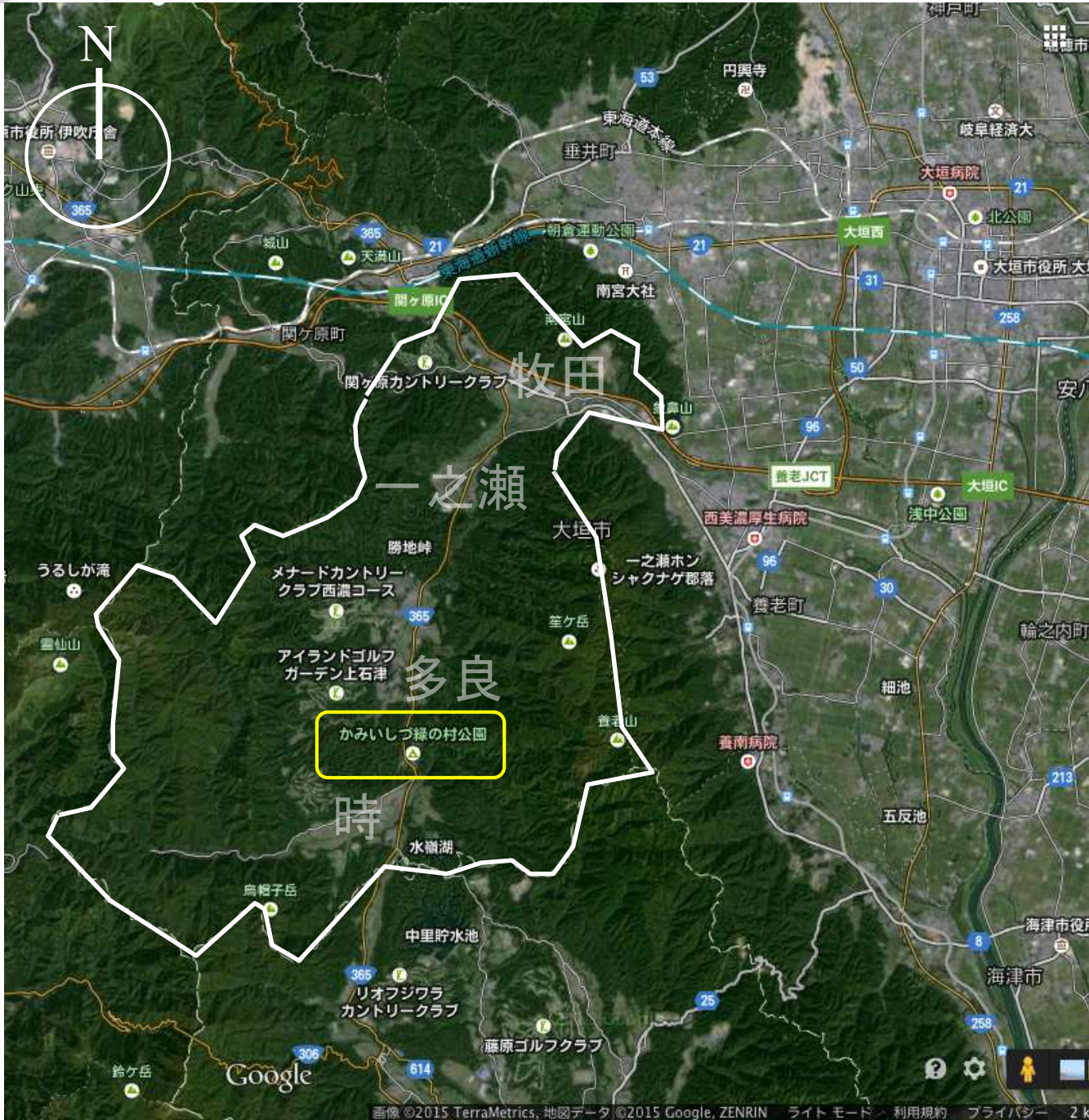


第1回 臨床環境学カフェ

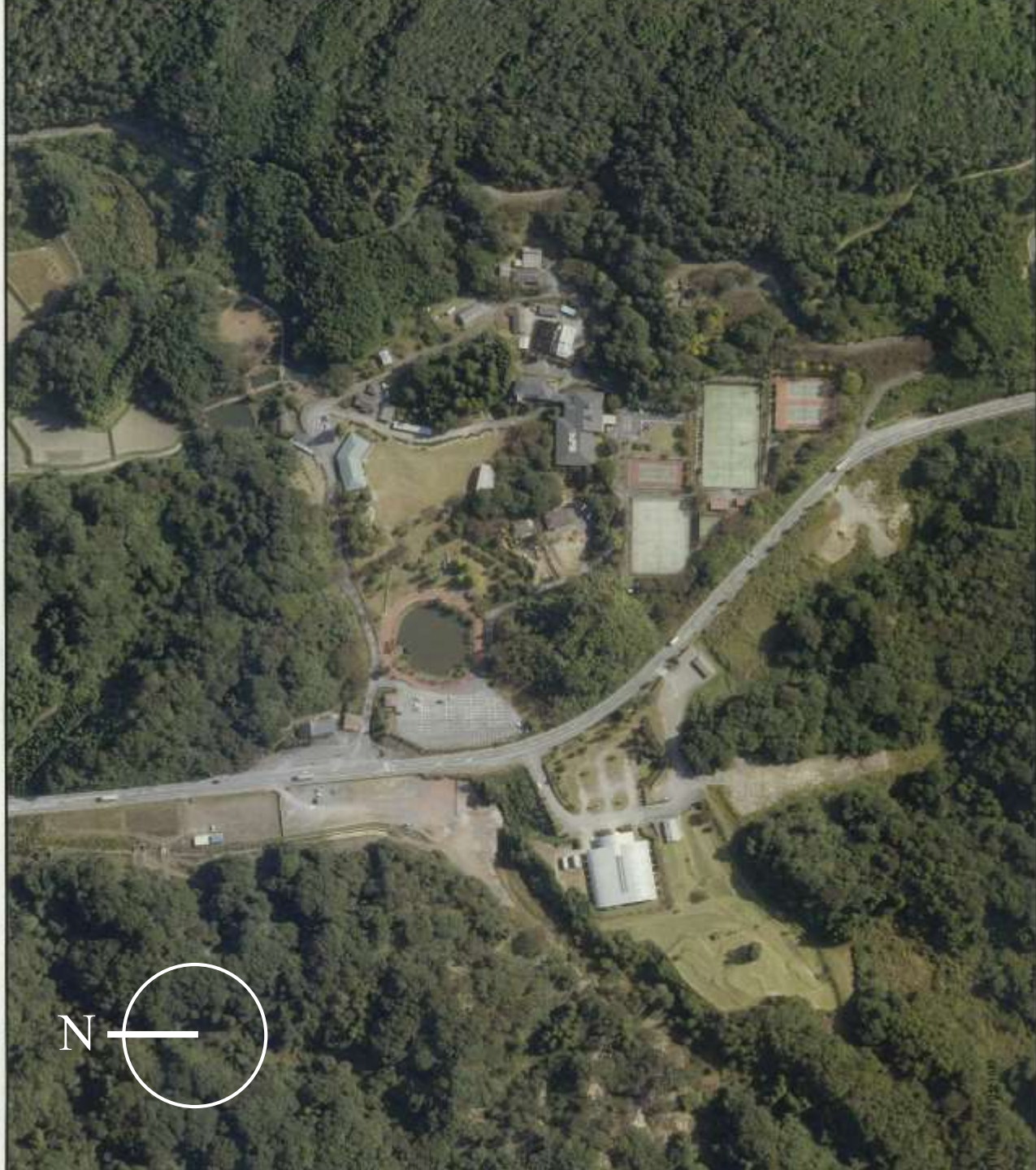
第1回 臨床環境学カフェ

緑の村公園リノベーション計画策定

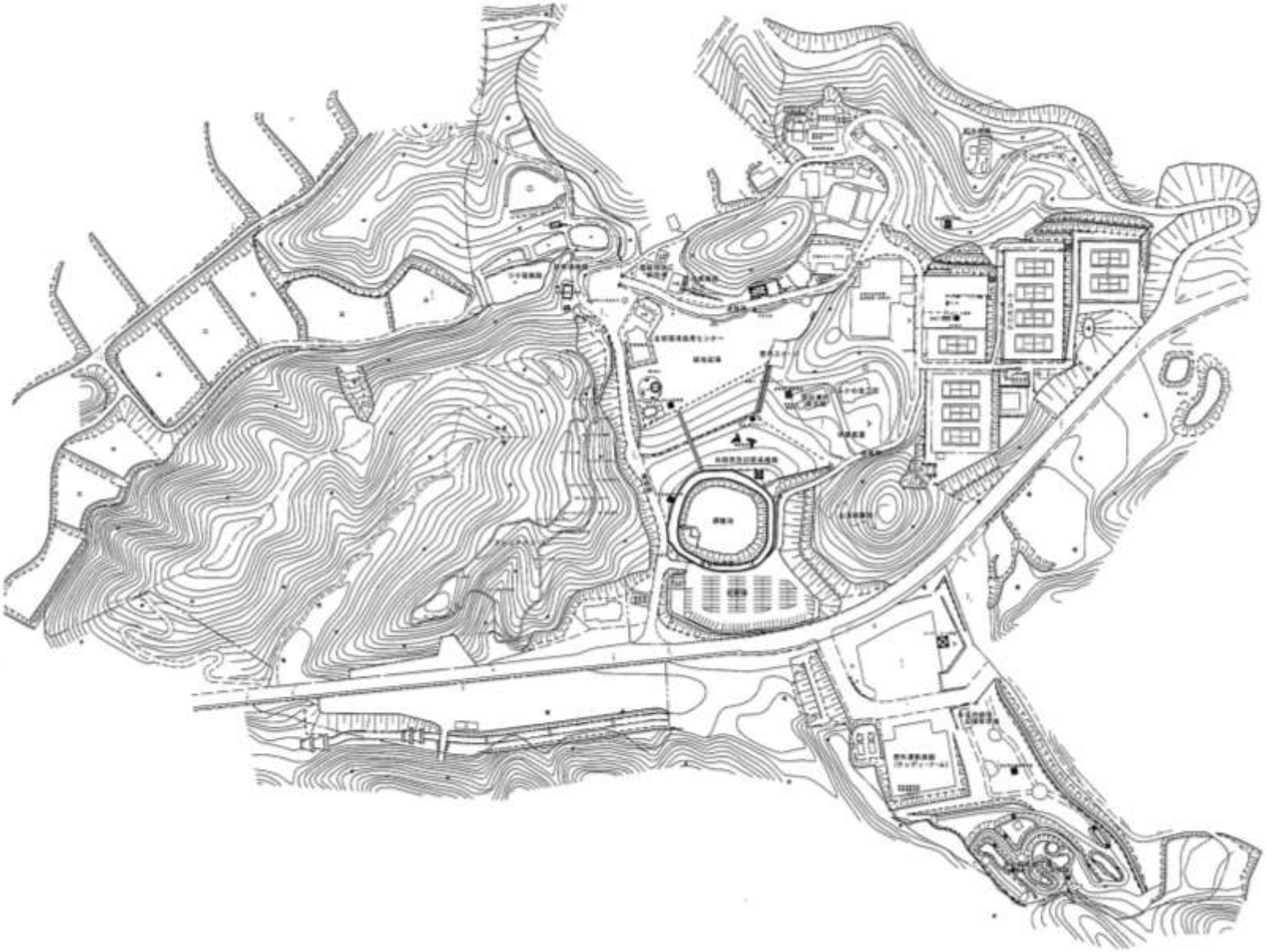
第1回 臨床環境学カフェ



緑の村公園



緑の村公園



大垣市かみいしづ緑の村公園

公園施設案内図

第1回 臨床環境学カフェ

第1回 臨床環境学カフェ

第1回 臨床環境学カフェ

第1回 臨床環境学カフェ

大垣市 かみいしづ

緑の村公園

団体用体験プログラム

大垣市かみいしづ緑の村公園では、学校・子供会・少年団などの団体を対象に、各種体験プログラムを用意しております。自然豊かな緑の公園で、いろいろな体験をしてみませんか？

緑の村公園 KAMIISHIZU

宿泊施設も完備しております。
合宿や行事などにも是非ご利用ください。

一般社団法人 かみいしづ緑の村公社
〒503-1623 岐阜県大垣市上石津町上多良前ヶ瀬入会1-1
電話：(0584)45-2287　FAX：(0584)45-2863
http://www.ogaki-tv.ne.jp/~midorinomura

体験プログラム　申込方法

電話・FAX・郵送もしくは直接来園にて
以下の内容をご連絡ください。

- 希望するプログラム名(雨天時の対応)
- 参加予定人数
- 実施希望日時
- 団体名、代表者氏名、住所、連絡先

講師に内容を確認後、こちらから連絡致します。

同時に複数のプログラムの開催を希望される場合は、講師の都合により行えない場合がありますのでご了承ください。

★申込は開催希望日の10日前までにお願いします。
キャンセルの場合は、決定次第ご連絡ください。

◆注意事項

- 参加希望者が定員を超える場合は、ご相談に応じます。
- 料金・内容等は予告なしに変更する場合があります。事前にご確認ください。
- 参加料は特に明記がない限り、1人あたりの料金です。材料が必要なものは、材料費を含みます。
- 各プログラムは傷害保険に加入しております。万一事故による傷害が発生した場合は、保険の範囲内で対応させていただきます。
- 内容・場所・参加人数・時間等はご相談に応じます。
- 講師の都合により、内容・日時等変更をお願いする場合がありますが、ご了承ください。
- 雨天時のみ開催を希望される場合、夏休み期間中等、時期によってはお断りさせていただく場合があります。また、後から天候に関わらず利用する団体から申込があった場合はそちらを優先し、時間を調整・変更していただく場合がありますのでご了承ください。

◆交通のご案内

《東海道線》
大垣駅→多良・時行き(路線バス1時間)
関ヶ原駅→多良・時行き(路線バス30分)

《自動車》
名古屋から(関ヶ原IC経由)1時間30分
岐阜から1時間　四日市から1時間

第1回 臨床環境学カフェ

① ストーンペインティング

内容：身近にある石に絵を描き、創造力を育みます。
定員：10～30名
料金：200円
時間：１時間

② 竹のおもちゃ作り

内容：竹とんぼ・竹けん玉・水鉄砲を作ります。
定員：10～20名
対象年齢：小学校４年生～
料金：竹とんぼ …… 300円
竹けん玉・水鉄砲 500円
時間：各１時間

③ まゆクラフト

内容：まゆを使ってクラフトをします。
定員：10～30名
対象年齢：小学校４年生～
料金：400円
時間：１時間

④ 化石のレプリカ作り

内容：石こうでアンモナイト・三葉虫などの化石のレプリカを作ります。
定員：10～20名
料金：400円
時間：１時間

⑤ バードコール作り

内容：木を使って鳥の鳴き声に似た音が出るバードコールを作ります。
定員：10～30名
料金：400円
時間：１時間

⑥ 動物ブローチ作り

内容：野鳥の型から好きなものを選んで色を塗り、かわいいブローチを作ります。
定員：10～30名
料金：500円
時間：１時間

⑦ ウッドバーニング

内容：電熱ペン（焼きペン）を使って木に絵を描きます。
定員：10～20名
料金：500円
時間：１時間

⑧ 万華鏡作り

内容：竹を使って万華鏡を作ります。
定員：10～20名
料金：500円
時間：１時間

⑨ まが玉作り

内容：ろう石を削ってまが玉を作ります。
定員：10～30名
料金：600円
時間：１～２時間
（キレイに仕上げるには2時間程必要です。）

⑩ 陶芸教室

内容：陶芸を体験します。講師が指導するので初心者でも楽しめます。
定員：5～30名
料金：小中高生600円～
（各種割引あり）
時間：１時間

⑪ 草木染め教室

内容：緑あふれる上石津の山の草木を使って草木染めを体験します。
定員：10～20名
料金：ハンカチ…600円
バンダナ…800円
時間：１時間

⑫ 石窯ピザ作り教室

内容：粉からピザを作り、公園内の石窯で焼きます。
定員：10～40名・1人あたりピザ1/2枚
料金：600円（30名以上500円）
※別途開催料 10,000円
時間：３時間

緑の村公園リノベーション計画策定（受託研究）

《かみいしづ緑の村公園について》

- 所在地　：大垣市上石津町上多良前ヶ瀬入会1番地1。
- 開設年　：1982年開設
- 敷地面積：敷地面積15.0ha。
- 施設等　：宿泊施設「奥養老」（約50人宿泊可能。延床面積1077m2）の他、テニスコート、バーベキュー場、グラウンドゴルフ場など。

《問題点》

■ 利用者が減少

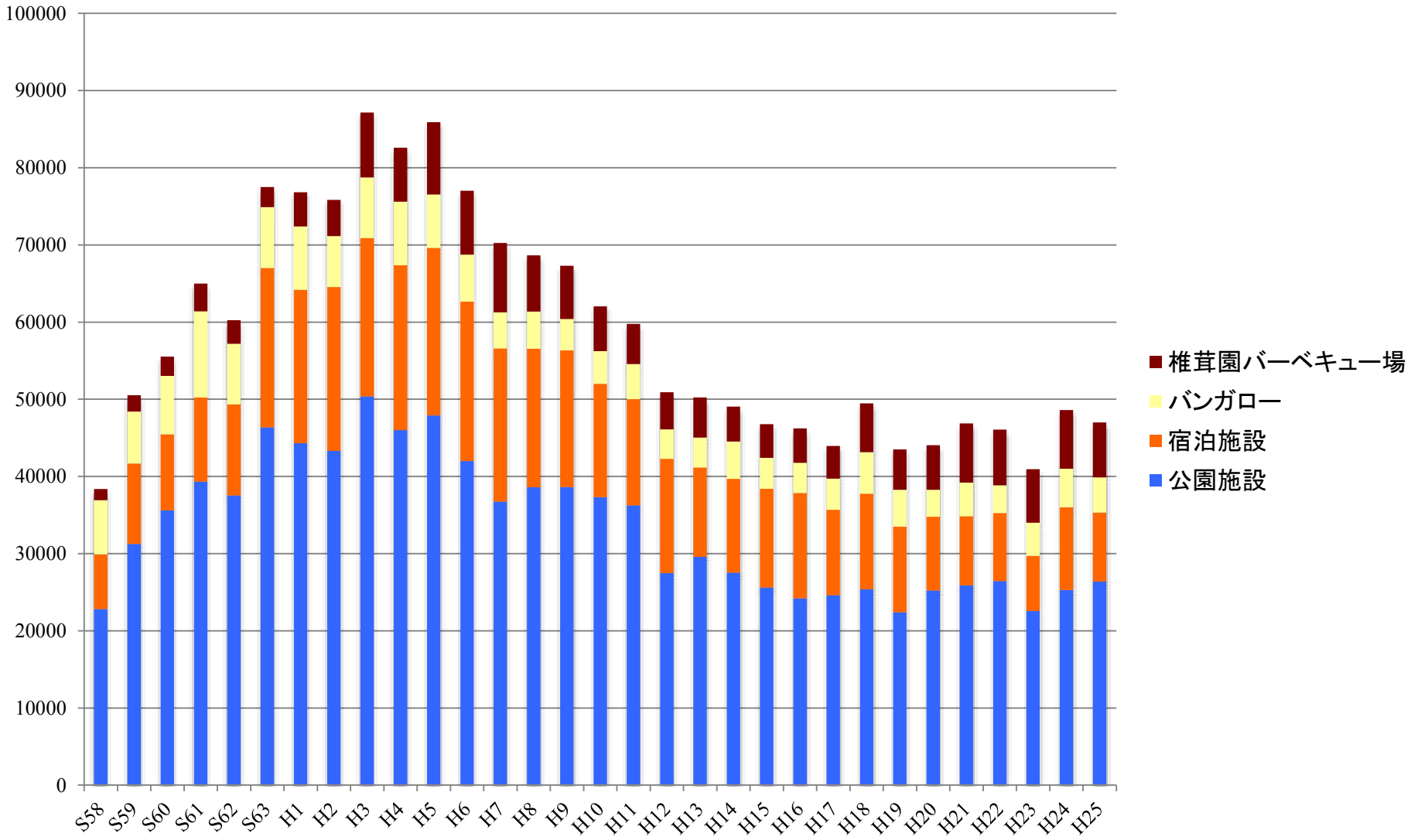
- 周辺他施設との競合から（宿泊は3500人／年程度）
- 施設の老朽化

《委託内容》

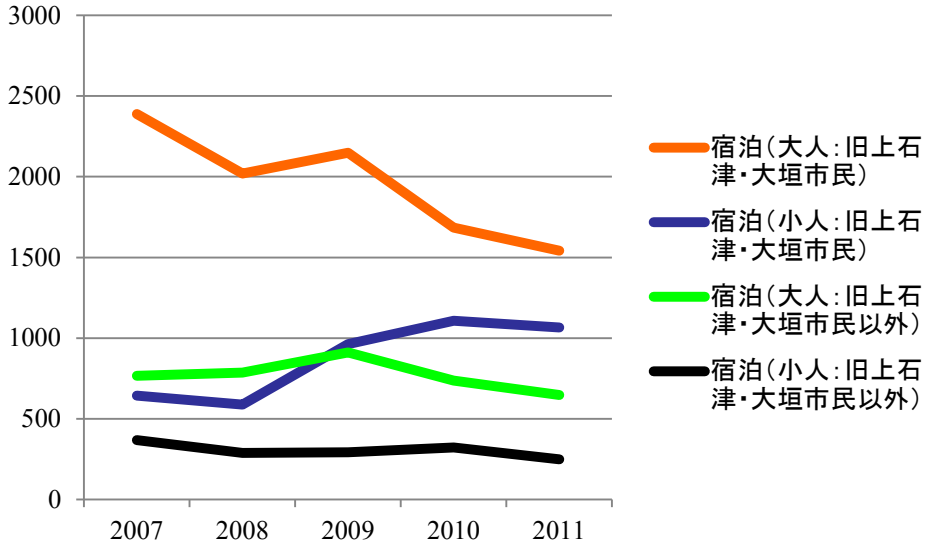
■ 単なるレクリエーション施設のアップデートではなく、物理的、機能的、組織的に、抜本的な対応を含めて検討したい。

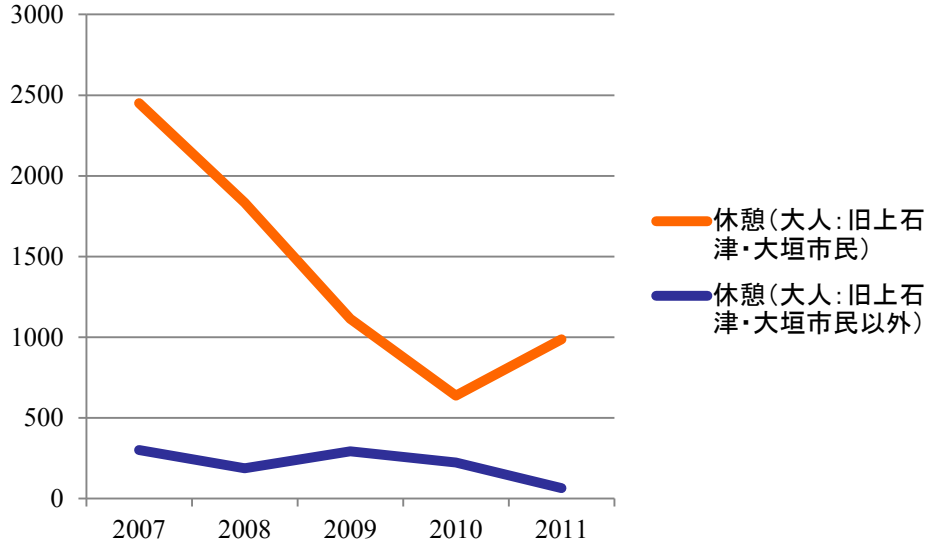
- その検討業務を委託したい（2014～15年度予定）。

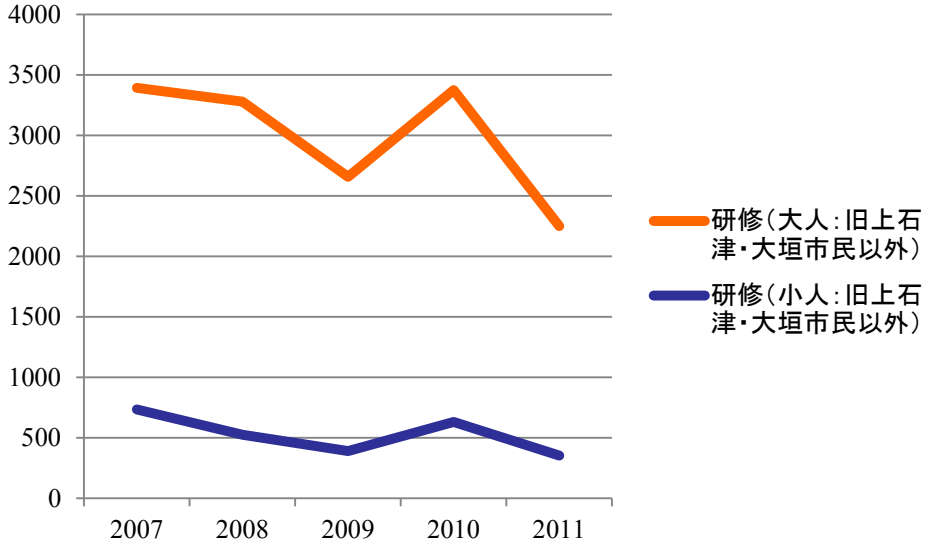
緑の村公園　来訪者数データ



緑の村公園　来訪者数データ







これまでの検討経過

■ 検討課題

- リクリエーション施設としての可能性はあるのか？
- リクリエーション施設以外の可能性はあるのか？
  - ハードの再整備
  - 提供メニューの再検討
  - 運営体制の再構築

■ 検討作業

- 各種データの入手と分析
- 施設関係者や住民（4地区）へのヒアリング

■ 現時点までの検討結果（私見）

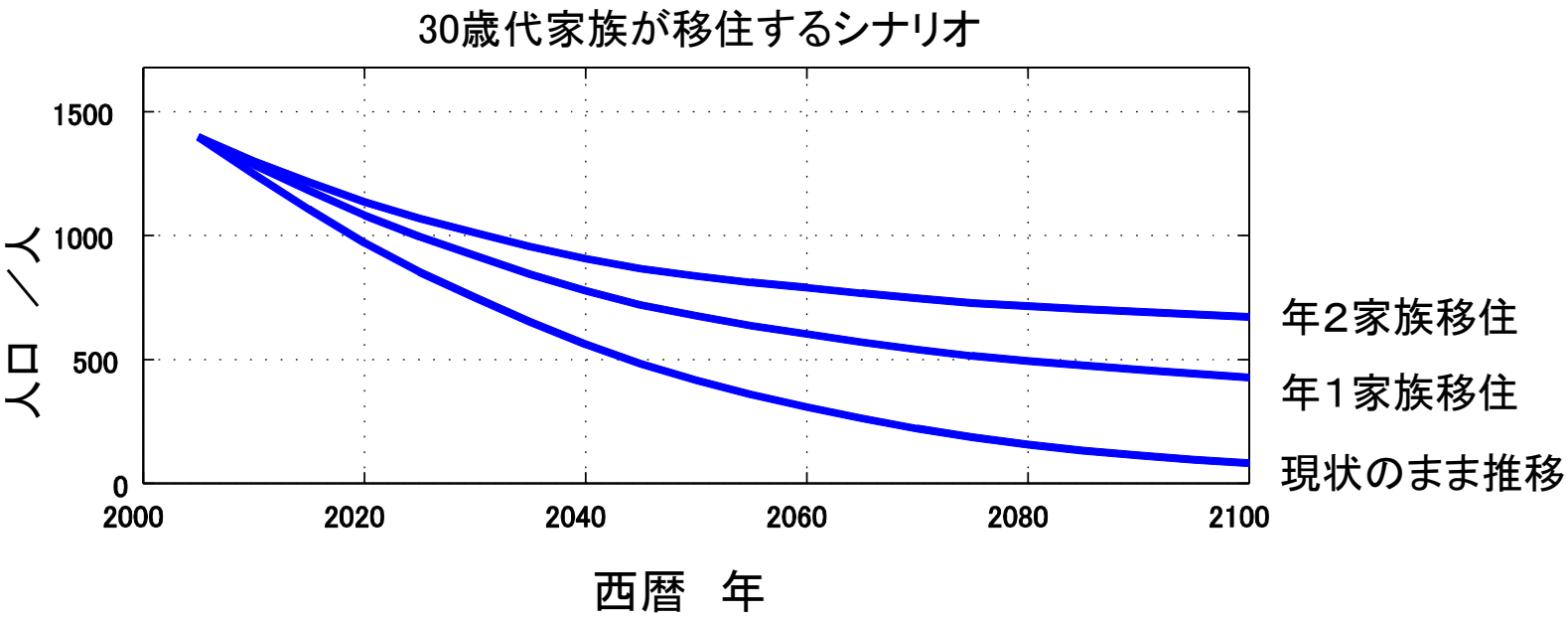
- リクリエーション施設としての役目は終わった
- 運営組織の抜本的改革
- 上石津としての将来像を描きながら、本施設の再整備構想を
- 若い世代や移住者など、外の目とアイデアを構想に取り込む

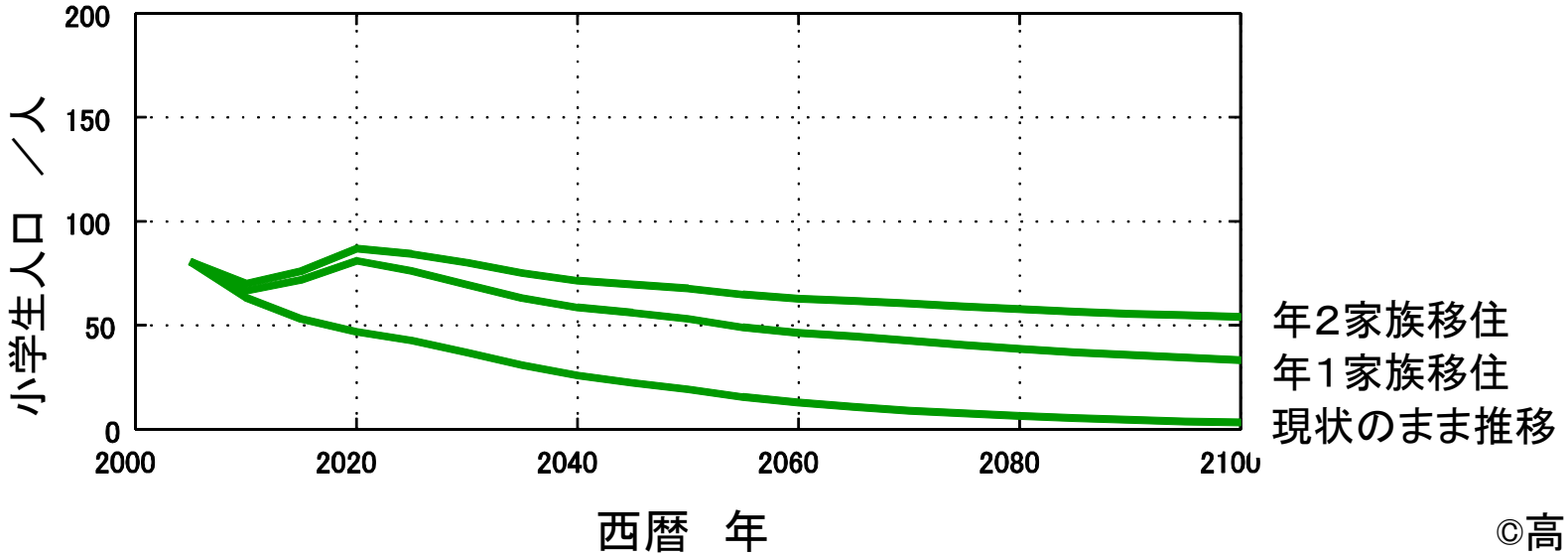
  例）里山暮らしの体験居住施設への転用

  上石津内・外の交流促進センター

４地区でのヒアリング

時地区の人口シミュレーション

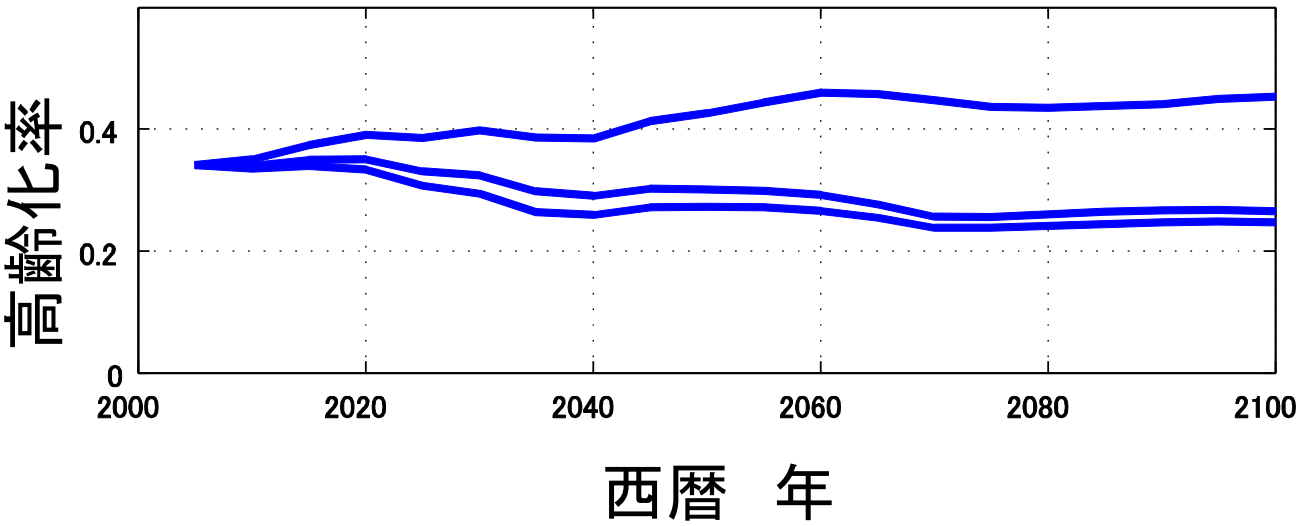




©高野雅夫

時地区の人口シミュレーション

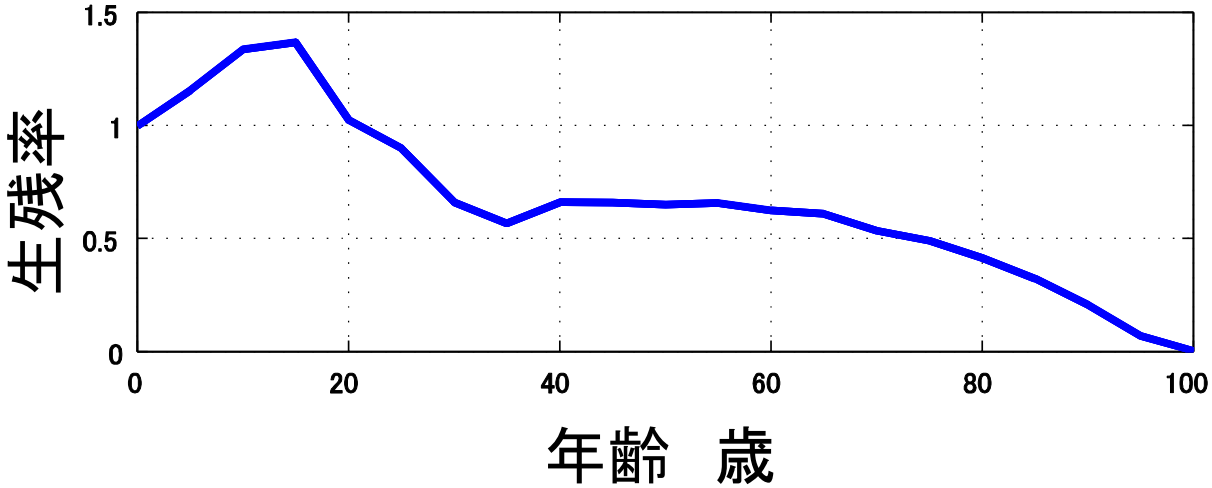
30歳代家族が移住するシナリオ



現状のまま推移

年1家族移住

年2家族移住



©高野雅夫

4地区のヒアリング結果（緑の村公園について）

■ 日常的な関わりや利用状況

- かつては企業研修や法事で使った。日常的な関わりはない。
- テニスなどで。
- アメンボ（移住者による喫茶・物販店）には時々行く。

■ 施設について

- そんなにお金かけなくてもいい施設になる気がする。宣伝の仕方。知らない人も多い。
- 駐車場のトイレが汚い。遊具が少ない。

■ 運営に関して

- イベントもマンネリ傾向。あれでは退屈。
- 指定管理者として運営委託されている組織に問題がある。
- 去年の事故で疲弊した。市は予算カット。カヌーも止まっている。里山をもっと大事にしないと。
- 緑の村公園に投入されている予算を、上石津全体にとって有効に使うべき。
- 緑の村公園だけでなく、公共施設が地区毎に分散している。

4地区のヒアリング結果（上石津の課題について）

■ 移住について

- 移住者を受け入れる地域側が変わらないと。

■ 学校や子どもについて

- 上石津の今年の新生児は30人いない。つまり、学校の統廃合問題が近々表面化するはず。その対応策を今から考えるべき。
- 子どもが中心でないと催し物が成り立たないので、子どもが参加できるものになる。

■ 高齢者

- 高齢者をどう見守って行くか。緑の村を温泉を使った施設にしては。

■ 上石津全体について

- 合併したことによって中山間地域の特例措置がなくなり、割を食っている。
- 市は自治会毎に対応しているので、上石津全体としてのまとまりに欠ける。
- 移住者に比べて住民の意識は？　どれくらい努力しているか？　少子化に対する危機感はあるのか？

今後の検討課題

- 緑の村公園の再生構想の立案
  - 上石津町の持続可能性を支援する拠点として
- 移住・定住促進
  - 空き家の活用、地域での管理方法、移住者の受け入れ方
  - 現住民の定住促進
- 小学校の問題
  - 統廃合に対する代案づくり
- 高齢者の見守りや介護サービス
- 森林資源の維持管理と活用
  - 〈現在〉木の駅プロジェクト、薪ボイラーでの温泉施設
- 飛び地である上石津町の将来像
  - 大垣市の中での位置付け
  - 上石津町としての自立的経営方法

臨床環境学の進め方（私見）

■ 分析の統合化
- 臨床的研究とともに、地域へのフィードバックの仕方を
  - 「プロダクト・アウト」から「マーケット・イン」へ

  ⇒専門性の展開や拡張の可能性を探る

■ 誰のために？　何のために？
- 依頼者の要求に応えるだけでは十分でない場合も
  - 検討し、提言すべきことは何か？

  ⇒教育研究の芽やヒントがここにある

■ 専門家ネットワークと役割
- 臨床環境学のプロジェクトは「生き物」

  ⇒状況対応的にさまざまな専門家と協働するのが理想
- プロジェクトのリーダーとサポーター

■ 学生にとっての臨床環境学
- 問題の所在や深度、関係を知り、関係者と共有する。
- よそ者・若者としての役割。
- 教員は「学生が得るものは何か？」を忘れない

ご静聴ありがとうございました